

科目	身体障害作業療法学Ⅱ	担当	富山 直輝	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

本科目では、身体障害領域で多く用いられる治療訓練の原理、脳血管障害、変性疾患、神経・筋疾患の障害像、評価方法、治療・訓練を理解することを目標とする。到達目標は、1)身体障害の作業療法の治療理論を説明できるようになること、2)疾患による障害の特徴を説明できるようになること、3)各疾患の作業療法の基本的な考え方を説明できるようになることを目標とする。

【履修注意】

本科目は、専門基礎科目の知識が基礎となる。なお、予定変更の場合もある。

【評価方法】

期末試験8割、小テスト2割を総合して評定する。

【試験について】

- ・期末試験を実施する。
- ・再試験対象者の条件：総合評価が6割未満。

【予習・復習】

- ・本科目は1単位科目であるため、講義以外に45分の自主学習が必要となる(文部科学省指針)。
- ・神経病学などの関連科目について予習・復習(45分程度)して講義に参加すること。
- ・小テストを実施し到達度を確認する。

【教科書】

書籍名：作業療法学全書改訂第3版 作業治療学1 身体障害 著者：菅原洋子 編 出版社：協同医書出版

【参考書】

書籍名：図解 作業療法技術ガイド 第3版 出版社：文光堂(購入済み)。

書籍名：標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 著者：岩崎テル子 編 出版社：医学書院

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	関節可動域制限と筋力低下	原因・原理・治療訓練
2	感覚障害と筋緊張異常	原因・原理・治療訓練
3	失調症と廃用性症候群	原因・原理・治療訓練
4	脳血管障害の作業療法1	脳血管の解剖・病態
5	脳血管障害の作業療法2	障害像・評価・治療・訓練
6	脳血管障害の作業療法3	障害像・評価・治療・訓練
7	脳血管障害の作業療法4	障害像・評価・治療・訓練
8	パーキンソン病の作業療法1	病態・障害像
9	パーキンソン病の作業療法2	障害像・評価・治療・訓練
10	脊髄小脳変性症の作業療法1	病態・評価・予後予測・治療・訓練
11	脊髄小脳変性症の作業療法2	病態・評価・予後予測・治療・訓練
12	ギランバレー症候群の作業療法	病態・評価・予後予測・治療・訓練
13	筋萎縮性側索硬化症の作業療法	病態・評価・予後予測・治療・訓練
14	重症筋無力症の作業療法	病態・評価・予後予測・治療・訓練
15	多発性硬化症の作業療法	病態・評価・予後予測・治療・訓練
16	定期試験	